

経営比較分析表（令和5年度決算）

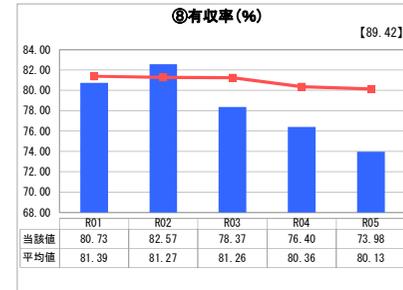
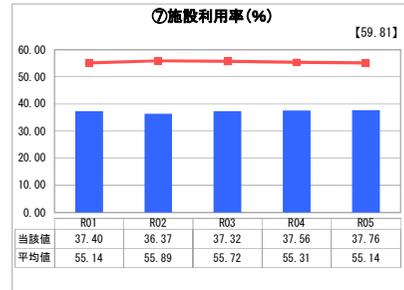
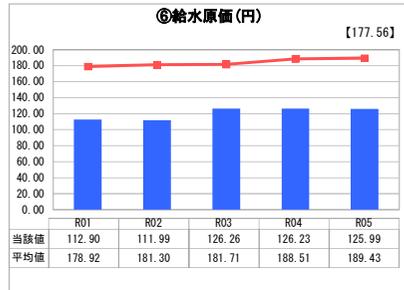
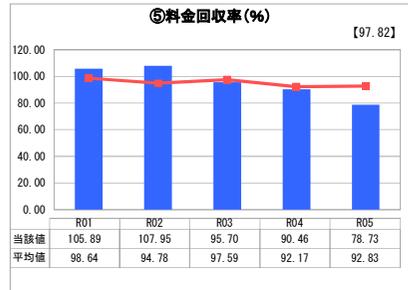
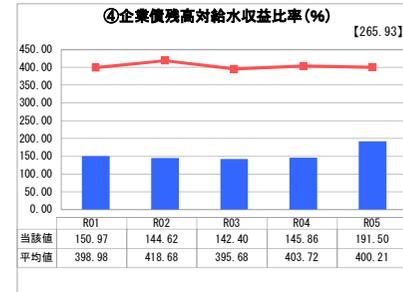
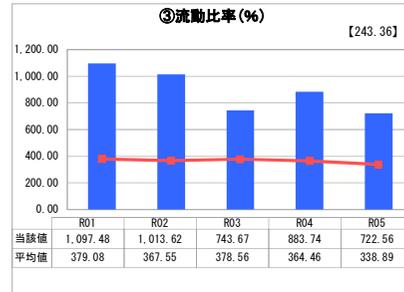
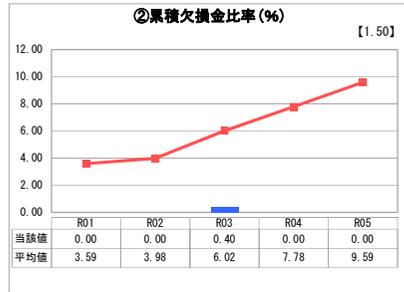
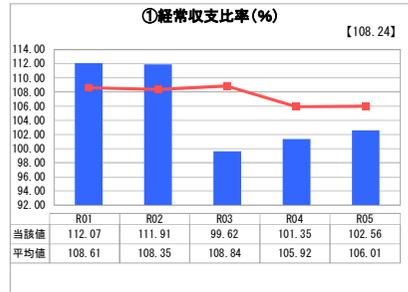
群馬県 沼田市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	83.55	51.81	2,510	

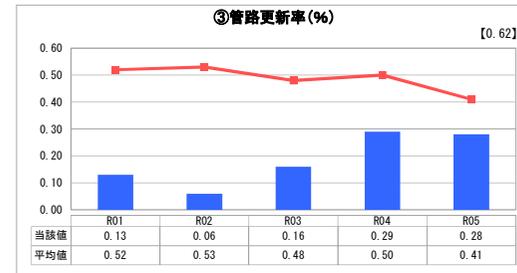
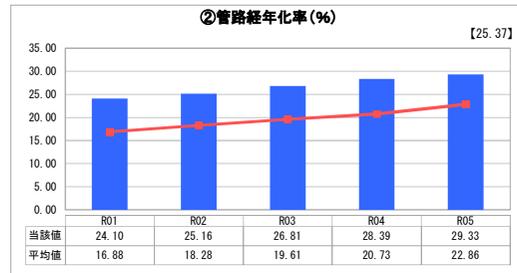
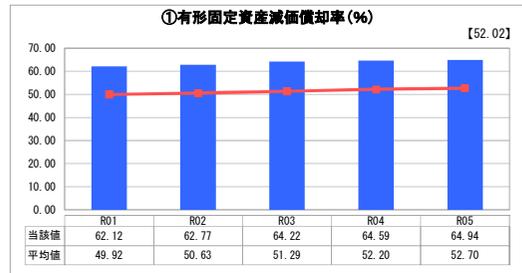
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
44,361	443.46	100.03
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
22,821	9.85	2,316.85

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- 令和5年度においては、委託料及び修繕料が前年と比較して減少したが、今後は老朽化した施設の更新又は修繕を控えており、費用の増加が見込まれる。
- 欠損金は発生しなかったが、今後も発生させないための経営努力をしていく必要がある。
- 前年と比較し数値は下がったが、類似団体と比較して高く、経営状況は良好と言える。今後は、施設の更新に伴い数値が悪化するとの見込まれるため、適切な料金の改定を行い支払能力を高める必要がある。
- 近年大規模な工事を実施しておらず、起債の借入が少ないため、類似団体より大幅に下回る状況である。今後は、施設更新に係る多額の費用を企業債に頼る予定であり、数値が悪化するとの見込まれるため、適切な起債計画・運営が必要である。
- 人口減少のほか、コロナ禍による経済対策としての基本料金を減免を実施したため給水収益が減少し数値が悪化した。料金減免を除くと実質的には100%前後となる。しかし、令和7年度から料金改定を実施するため、数値の回復が見込まれる。
- 前年度とほぼ横ばいであり、類似団体と比較してかなり低くなっている。今後は、老朽化した施設の更新により減価償却費が高くなることから数値も高くなることが見込まれる。
- 30%代後半で推移しており、類似団体と比較して低い状況である。現行の浄水場建設時に人口推移を過大に見積もり、施設容量を大きくしたことが要因である。新浄水場は、ダウンサイジングして建設する予定であり、更新後の数値の改善を図る。
- 管路施設老朽化に起因する漏水により一昨年から悪化傾向にあり、改善のきざしが見られない状況である。料金改定により費用を確保した上で管路の更新を進めて数値の改善を図る。

2. 老朽化の状況について

- 施設の老朽化により、類似団体と比較して高くなっている。今後は、浄水場や管路の更新により数値の改善が見込まれる。
- 耐用年数を超過している管路の割合が高い状況が続いている。人口減少による給水収益の悪化により、必要な経費が確保できず、耐用年数を超過した管路の更新が進んでいないことが要因である。今後は料金改定により費用を確保した上で計画的な管路の更新を進めて数値の改善を図る。
- 類似団体と比較して低く、管路の更新が大幅に遅れている状況である。更新に必要な財源の確保や経営に与える影響を踏まえた分析を行い、投資計画を見直す必要がある。

全体総括

令和5年度は、令和4年度に引き続き水道料金減免を実施した結果、給水収益が減少し、料金回収率も低下した。

また、流動比率は、類似団体と比較して高く、企業債残高対給水収益比率は低いことから、財務の状況は比較的良好である。しかし、今後の浄水場更新事業に伴う多額の費用を起債に頼らざるを得ない状況であり、企業債の償還を踏まえた上で、適切な料金改定を定期的に実施し、料金収入の確保が不可欠である。令和7年度から料金改定を実施するが、今後も投資・財政計画を綿密に立て、着実に進めていく必要がある。

さらに、管路更新率と有形固定資産減価償却率の数値から分かるように管路の更新が進んでいない状況である。その主な原因は、漏水修繕等に人員と費用がかかっているためである。今後の経営戦略においては、詳細な経営を見込んだ上で、計画的に更新事業を進めていく必要がある。施設の計画的な更新を通じて、安全で安心な水道水を継続的に供給できる体制を確保していきたい。